

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 3 部門第 2 区分

【発行日】 平成 19 年 1 月 25 日 (2007.1.25)

【公表番号】 特表 2006-515595 (P2006-515595A)

【公表日】 平成 18 年 6 月 1 日 (2006.6.1)

【年通号数】 公開・登録公報 2006-021

【出願番号】 特願 2004-564206 (P2004-564206)

【国際特許分類】

C 0 7 D 239/28 (2006.01)

C 0 7 D 401/12 (2006.01)

C 0 7 D 403/12 (2006.01)

C 0 7 D 407/12 (2006.01)

C 0 7 D 409/12 (2006.01)

C 0 7 D 417/12 (2006.01)

A 6 1 K 31/505 (2006.01)

A 6 1 K 31/506 (2006.01)

A 6 1 K 31/5377 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/08 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 1/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/02 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 239/28 C S P

C 0 7 D 401/12

C 0 7 D 403/12

C 0 7 D 407/12

C 0 7 D 409/12

C 0 7 D 417/12

A 6 1 K 31/505

A 6 1 K 31/506

A 6 1 K 31/5377

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 19/08

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 1/02

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 25/02

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】 平成 18 年 11 月 30 日 (2006.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

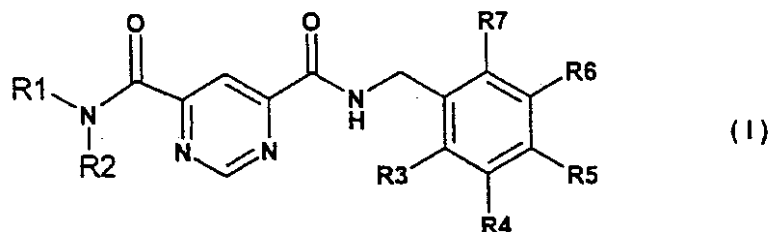
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I)

【化 1】



の化合物、および／または、式 (I) の化合物の全ての立体異性体、および／または、それらの形態のあらゆる割合での混合物、および／または、式 (I) の化合物の生理的に認容できる塩。

上記式中、

R1は、水素原子、または、 $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

R2は、 $-(C_1-C_6)$ -アルキルであって、ここでアルキルは、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

1. $-C(0)-O-R8$ 、ここでR8は

1.1) 水素原子、もしくは

1.2) $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

2. $-(C_1-C_6)$ -アルキル- $O-R8$ 、ここでR8は、

2.1) 水素原子、もしくは

2.2) $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

3. $-(C_6-C_{14})$ -アリール、ここでアリールは、それぞれ独立して、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

3.1) $-(C_2-C_6)$ -アルキル- $C(0)-O-R8$ 、ここでR8は

3.1.1) 水素原子、もしくは

3.1.2) $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

3.2) $-O-(C_1-C_6)$ -アルキル- $C(0)-O-R8$ 、ここでR8は

3.2.1) 水素原子、もしくは

3.2.2) $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

3.3) $-N(R14)-(R15)$ 、ここでR14およびR15は、それらが結合している窒素原子と一緒に、5-、6-、または、7-員の飽和環を形成し、ここで酸素、硫黄および窒素の組からのヘテロ原子により、さらに1個または2個の炭素原子を置換することもでき、窒素の場合は、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でもまたは $-(C_1-C_6)$ -アルキルで置換することもでき、

3.4) $-(CH_2)_k-N(R9)-(R10)$ 、ここでkは2、3、4もしくは5であり、R9およびR10は、それぞれ独立して、同一または異なって、

3.4.1) 水素、もしくは、

3.4.2) $-(C_1-C_6)$ -アルキルであり、

または、R9およびR10は、それらが結合している窒素原子と一緒に、5-、6-、または、7-員の飽和環を形成し、ここで酸素、硫黄および窒素の組からのヘテロ原子により、さらに1個または2個の炭素原子を置換することもでき、窒素の場合は、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でもまたは $-(C_1-C_6)$ -アルキルで置換することもでき、

3.5) $-O-(C_2-C_6)$ -アルキル- $N(R_9)$ - R_{10} 、ここで R_9 および R_{10} は、上記の意味を有し

、
3.6) $-N(R_8)-C(0)-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、または、1回、2回または3回置換されており、その置換基は、

3.61) ハロゲン、

3.62) シアノ、

3.63) ニトロ、

3.64) ヒドロキシル、

3.65) アミノ、

3.66) $-C(0)-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、もしくは

3.67) $-C(0)-OH$ であり、

4. Het、ここでHetは、飽和もしくは不飽和の、単環もしくは二環、3～10員複素環系であって、1、2もしくは3個の、同一または異なった、窒素、酸素および硫黄の組からの環ヘテロ原子を含み、非置換、または、1回またはそれ以上置換されており、その置換基は、

4.1) ハロゲン、

4.2) シアノ、

4.3) ニトロ、

4.4) ヒドロキシル、

4.5) アミノ、

4.6) $-C(0)-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、

4.7) $-C(0)-OH$ 、

4.8) $-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、または、ハロゲンで、1回、2回または3回置換されており、

4.9) $-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、または、ハロゲンで、1回、2回または3回置換されており、

4.10) ピリジル、または

4.11) フェニル、ここでフェニルは非置換、または、ハロゲン、 (C_1-C_6) -アルコキシ、および、 (C_1-C_6) -アルキルの組からの基で、それぞれ独立して、1回またはそれ以上置換されている、

であり、そして

R_3 、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 は、同一または異なって、それぞれ独立して、

1. 水素原子、

2. ハロゲン、

3. $-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回または3回置換されており、

4. $-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回または3回置換されており、または

5. $-S-(C_1-C_6)$ -アルキル

である。

【請求項2】

式(I)中、

R_1 は、水素原子、または、 $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

R_2 は、 $-(C_1-C_4)$ -アルキルであって、ここでアルキルは、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

1. $-C(0)-O-R_8$ 、ここで R_8 は

1.1) 水素原子、もしくは

1.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

2. $-(C_1-C_4)$ -アルキル- $O-R_8$ 、ここで R_8 は、

2.1) 水素原子、もしくは

2.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

3. フェニル、ここでフェニルは、それぞれ独立して、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

3.1) $-(C_2-C_4)$ -アルキル- $C(0)$ - O -R8、ここでR8は

3.1.1) 水素原子、もしくは

3.1.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

3.2) $-O-(C_1-C_4)$ -アルキル- $C(0)$ - O -R8、ここでR8は

3.2.1) 水素原子、もしくは

3.2.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

3.3) $-N(R14)-(R15)$ 、ここでR14およびR15は、それらが結合している窒素原子と一緒にあって、イミダゾリジン、イソチアゾリジン、イソオキサゾリジン、モルホリン、ピペラジン、ピペリジン、ピラジン、ピラゾリジン、ピロリジン、テトラジン、または、チオモルホリンから誘導できる、5-、6-、または、7-員の飽和環を形成し、ここで、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でもまたは $-(C_1-C_4)$ -アルキルで置換することもでき、

3.4) $-(CH_2)_k-N(R9)-(R10)$ 、ここでkは2、3もしくは4であり、R9およびR10は、それぞれ独立して、同一または異なって、

3.4.1) 水素原子、もしくは、

3.4.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

または、R9およびR10は、それらが結合している窒素原子と一緒にあって、イミダゾリジン、イソチアゾリジン、イソオキサゾリジン、モルホリン、ピペラジン、ピペリジン、ピラジン、ピラゾリジン、ピロリジン、テトラジン、または、チオモルホリンから誘導できる、5-、6-、または、7-員の飽和環を形成し、ここで、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でもまたは $-(C_1-C_4)$ -アルキルで置換することもでき、

3.5) $-O-(C_2-C_4)$ -アルキル- $N(R9)-R10$ 、ここでR9およびR10は、上記の意味を有し、

3.6) $-N(H)-C(0)-(C_1-C_4)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、または、1回、2回または3回置換されており、その置換基は、

3.6.1) ハロゲン、

3.6.2) シアノ、

3.6.3) ニトロ、

3.6.4) ヒドロキシル、

3.6.5) アミノ、

3.6.6) $-C(0)-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、もしくは

3.6.7) $-C(0)-OH$ 、であり、

4. Het、ここでHetは、アゼピン、アゼチジン、アジリジン、ベンゾイミダゾール、ベンゾ[1,4]ジオキシン、1,3-ベンゾジオキソール、ベンゾフラン、4H-ベンゾ[1,4]オキサジン、ベンゾオキサゾール、ベンゾチアゾール、ベンゾチオフエン、キナゾリン、キノリン、キノキサリン、クロマン、シンノリン、オキシラン、1,2-ジアゼピン、1,3-ジアゼピン、1,4-ジアゼピン、1,4-ジオキシン、ジオキソール、フラン、イミダゾール、インダゾール、インドール、イソキノリン、イソクロマン、イソインドール、イソオキサゾール、イソチアゾール、1,2-オキサジン、1,3-オキサジン、1,4-オキサジン、オキサゾール、フタラジン、ピペリジン、ピラン、ピラジン、ピラゾール、ピリダジン、ピリジン、ピリミジン、ピリドイミダゾール、ピリドピリジン、ピリドピリミジン、ピロール、テトラゾール、1,2-チアジン、1,3-チアジン、1,4-チアジン、チアゾール、チオフエン、チオピラン、1,2,3-トリアジン、1,2,4-トリアジン、1,3,5-トリアジン、1,2,3-トリアゾール、または、1,2,4-トリアゾールであり、そして、Hetは、非置換、または、それぞれ独立して、1回、2回もしくは3回置換されており、その置換基は、

4.1) ハロゲン、

4.2) アミノ、

4.3) $-C(0)-O-(C_1-C_4)$ -アルキル、

4.4) $-C(0)-OH$ 、

4.5) $-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されており、

4.6) $-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されており、

4.7) ピリジル、または

4.8) フェニル、ここでフェニルは非置換、もしくは、ハロゲン、 $-(C_1-C_4)$ -アルコキシ、および、 $-(C_1-C_4)$ -アルキルの組からの基で、それぞれ独立して、1回もしくはそれ以上置換されている、

であり、そして

R3、R4、R5、R6およびR7は、同一または異なって、

1. 水素原子、

2. ハロゲン、

3. $-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されており、または、

4. $-O-(C_1-C_6)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されている、

である、請求項1に記載の式(I)の化合物。

【請求項3】

式(I)中、

R1は、水素原子であり、

R2は、 $-(C_1-C_2)$ -アルキルであって、ここでアルキルは、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

1. フェニル、ここでフェニルは、それぞれ独立して、1回、2回または3回、置換されており、その置換基は：

1.1) $-(C_2-C_4)$ -アルキル- $C(0)-O-R8$ 、ここでR8は

1.1.1) 水素原子、もしくは

1.1.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

1.2) $-O-(C_1-C_4)$ -アルキル- $C(0)-O-R8$ 、ここでR8は

1.2.1) 水素原子、もしくは

1.2.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

1.3) $-N(R14)-(R15)$ 、ここでR14およびR15は、それらが結合している窒素原子と一緒にあって、イミダゾリジン、イソチアゾリジン、イソオキサゾリジン、モルホリン、ピペラジン、ピペリジン、ピラジン、ピラゾリジン、ピロリジン、テトラジン、または、チオモルホリンから誘導できる基を形成し、窒素の場合は、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でもまたは $-(C_1-C_4)$ -アルキルで置換することもでき、

1.4) $-(CH_2)_k-N(R9)-(R10)$ 、ここでkは2、3もしくは4であり、R9およびR10は、それぞれ独立して、同一もしくは異なって、

1.4.1) 水素原子、もしくは、

1.4.2) $-(C_1-C_4)$ -アルキルであり、

または、ここでR9およびR10は、それらが結合している窒素原子と一緒にあって、イミダゾリジン、イソチアゾリジン、イソオキサゾリジン、モルホリン、ピペラジン、ピペリジン、ピラジン、ピラゾリジン、ピロリジン、テトラジン、もしくは、チオモルホリンから誘導できる基を形成し、窒素の場合は、窒素原子は、それぞれ独立して、非置換でももしくは $-(C_1-C_4)$ -アルキルで置換することもでき、

1.5) $-O-(C_2-C_4)$ -アルキル- $N(R9)-R10$ 、ここでR9およびR10は、上記の意味を有し、または

1.6) $-N(H)-C(0)-(C_1-C_4)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、または、1回、2

回または3回置換されており、その置換基は、

1.6 1) ハロゲン、

1.6 2) $-C(0)-O-(C_1-C_4)$ -アルキル、もしくは

1.6 3) $-C(0)-OH$ 、であり、または

2. Het、ここでHetは、フラン、イミダゾール、イソチアゾール、イソオキサゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリダジン、ピリジン、ピリミジン、ピロール、チアゾール、チオフェン、1,2,3-トリアゾール、または、1,2,4-トリアゾールであり、そして、Hetは、非置換、または、それぞれ独立して、1回、2回もしくは3回置換されており、その置換基は、

2.1) ハロゲン、

2.2) アミノ、

2.3) $-C(0)-O-(C_1-C_4)$ -アルキル、

2.4) $-C(0)-OH$ 、

2.5) $-(C_1-C_4)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されており、

2.6) $-O-(C_1-C_4)$ -アルキル、ここでアルキルは非置換、もしくは、ハロゲンで、1回、2回もしくは3回置換されており、

2.7) ピリジル、または

2.8) フェニル、ここでフェニルは非置換、もしくは、ハロゲン、 $-(C_1-C_4)$ -アルコキシ、および、 $-(C_1-C_4)$ -アルキルの組からの基で、それぞれ独立して、1回もしくはそれ以上置換されている、

であり、そして

R3、R4、R5、R6およびR7は、同一または異なって、

1. 水素原子、

2. ハロゲン、

3. メチル、

4. トリフルオロメチル、

5. メトキシ、または、

6. トリフルオロメトキシ

である、請求項1または2に記載の式(I)の化合物。